



よこと館だより

Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



理事長閑話 埋め草 ⑥2

～公益財団社会福祉振興・試験センター理事長就任～

私は、この度 6 月 19 日社会福祉振興・試験センター理事会において非常勤理事長に選任されたことをお伝えいたします。この法人は社会福祉関係 3 資格（社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士）の国家試験問題作成・試験実施・登録の業務、及び居宅介護支援専門員受講資格試験問題作成を主な業務としている公益財団です。

振り返れば、私は昭和 62（1987）年、社会福祉士・介護福祉士資格制度の成立の頃ソーシャルワーカー協会に所属し、資格制度立ち上げの運動にも多少関わりました。平成 9（1997）年、精神保健福祉士の成立時には社団法人日本社会福祉士会の会長職にあったので関係機関の調整という様々な難しく苦しい経験もいたしました。

また社会福祉士や、居宅介護支援専門員の実務者研修受講資格試験等の試験問題作成実務にも永く関わっておりまして。今回この様な役を頂いた事に感慨ひとしおです。

振興・試験センターの日本における社会福祉推進の機能役割は承知しているつもりなので誠意をもって与えられた職責を果たしていくつもりです。直接皆さんの目に留まるのは、今後資格証には厚生大臣と並んで私の署名があることだと思えます。新たに職員が資格を取得した際には法人との関係を説明してあげてください。

という事ですが、それでは本務の至誠学舎立川の理事長職との関係はどうなるかという事を皆さん心配されることでしょう。現在、本法人の理事長職は専任となっています。試験センターの理事長は非常勤なので至誠学舎立川の仕事、責任を果たした上で職務上影響のない範囲で新しい役割を果たしていくこととなります。

もう一つ付け加えれば、本法人の役員には定年制が導入されていて 75 歳を過ぎて役員の再任は無いことになっています。という事で 7 月 4 日に 75 歳になった私の残りの任期は来年 6 月の定時評議員会までという事になります。この最後の一年の大きな課題は障害総合センターの建設と運営準備、梅が丘保育園建設移転、そして高齢事業本部の経営改善がテーマです。最後まで努力をしてまいりますので皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

理事長 橋本正明



事業本部長メッセージ

昨秋の台風で多摩川が増水した折「旭常務は確か福島に行っていましたね」との話になった。その時福島稲荷神社の例祭、陸上自衛隊福島駐屯地祭(大迫力)、そして全日本フオルクローレ大会「コスキン・エン・ハポン」が三日間にわたり福島市周辺で開催されていた。どれも単独で訪れるには B 級すぎるのだが、重複決定である。

ところで、熊本の洪水では特養の大勢のお年寄りが命を奪われた。大いなる恵みをもたらす自然はときに災害となって禍をもたらす。「祭り」の語源は「奉る」から派生したという説が有力だ。抗うすべのない脅威を奉り、崇めることで「護ってもらいたい」というのが自然崇拜の始まりの一つと言えよう。(諸説あります)なんとも日本人らしい健気な感覚ではある。

それにしても新型ウィルスを「コロナ大権現様」と呼ぶ気にはなれまい。

高齢事業本部長 旭 博之

事業本部情報

🌸 児童事業本部 🌸

至誠こどもセンターも2年目に入りました。昨年度から開始していたホームスタート（家庭訪問型子育て支援）は7件のご家庭に伺っていましたが、今回のコロナ禍で、全ケースの訪問をストップすることになりました。ボランティアさんを招くご家庭と、家庭に訪問するボランティアさんが「万が一無症状で感染していたら…」とお互いを気遣い結果です。緊急事態宣言が解除されてから、1件だけ再開しましたが、近ごろの感染者拡大の様子をみるとどうにもこの足を踏んでしまいます。在宅勤務により、家族の絆が深まればよいのですが、逆に息抜きもできず、一緒に子育てをしていく姿勢をもってもらえず苦しんでいるという報道に接すると、ホームスタートのご家庭もどうされているのかと心配になります。様々なコミュニケーションツールはあるものの、“協働”と“傾聴”でエンパワメントする支援としては、ご家庭に出向いて、その場の空気や子どもの行動などを五感で感じて支援しているのだと改めて感じた期間でもありました。



（至誠こどもセンター所長 島田美喜）

🌸 保育事業本部 🌸

保育目標「一人一人生き生きとした子どもをめざして」を掲げ日々の保育に取り組んでいます。園庭のない分、近隣の公園に散歩に出かけています。ご近所のお子さん連れの方とも一緒になってしまう際には、人数が多いのを配慮して早めに戻り屋上で遊ぶこともあります。今年の夏はコロナの関係でプールは中止とし、服を着たままでの水遊びをしています。それぞれで工夫をしてシャボン玉で遊んだり泡作りや職員もお子様たちが楽しく過ごせるようにと考えております。



園舎・保育室の換気も難しいですが空気清浄機を各階に設置しました。今までとは違う3密を取りながら、保育のあり方を一日一日大切に過ごしています。

7月16日はミニサンサンまつりを行いました。園児と職員だけではありますが2階から4階でゲームやうちわ作り・アイス屋さんなどのお店を出し、年長児がお手伝いさんとなりみんなで楽しく過ごせました。ゲームは職員の手作りです。

（しせい太陽の子保育園 園長 廣瀬優子）

🌸 高齢事業本部至誠ホーム 🌸

至誠柏ケアセンターは、多摩モノレール泉体育館駅から西側へ徒歩5分くらい歩いた「都営柏町一丁目アパート11号棟」にあります。介護保険サービスは、ケアマネジャーとデイサービスを運営しています。

至誠柏ケアセンターも新型コロナウイルスの影響で、4/16（木）～5/31（日）まで4名のケアマネジャーがAチームとBチームの2チーム、2人ずつに分かれてテレワークを実施しました。今までテレワークなど行ったことがなかったので、最初は心配もありました。しかし、「職場のPHS」「Web会議ツールZoom」等を活用することで、思っていたほど混乱することなく、テレワークを実践することができました。特にケアマネジャーは1回/週、「担当ケースの情報」や「地域の社会資源情報」などを共有する会議を持つ必要があり、「Zoom」を使って職場と自宅を繋いで会議を行いました。最初は画面に映る仲間へ話しかけるのに、ぎこちなさも感じていたのですが、少し経てばいつもと同じように白熱した議論を交わしていました。

テレワーク期間中もパソコンのモニター越しに会話はしていたものの、6月になって1ヶ月半振りに4人のケアマネジャー全員が職場に出勤して、久しぶりの再会に喜び合っている姿が印象的でした。

（至誠柏ケアセンター センター長 鈴木伸行）

本部事務局だより（見たいものしか見ていない）

熊本県を中心とした豪雨は、7月15日現在70人死亡、1人心肺停止、13人行方不明の被害をもたらす激甚災害に指定された。特に熊本県の特別養護老人ホーム「千寿園」では河川の氾濫により14人が死亡した。4年前にも岩手県の高齢者GHで入所者9名全員が亡くなる水害が発生しており、その教訓が生かされなかったのは残念でならない。

テレビで救出された人の話を聞くと「堤防のかさ上げ工事をしたから大丈夫だと思った」「60年住んでいて一度も氾濫したことが無かったから大丈夫と思った」という言葉を耳にする。古代ローマの皇帝カエサル（シーザー）は「人間は、見たいと欲する現実しか見ていない」と言っている。私たちは、『氾濫するかもしれないという現実を、氾濫しないで欲しい⇒氾濫しないだろう』という心のバイアスをかけることなく公平に見ているだろうか？『コロナは風邪のようなものだ』と言っているブラジルの大統領はカエサルに笑われはしまいか？（法人事務局長 野島 忠幸）

（編集後記）本来ならばオリンピックが開会され、世界中が盛り上がっていたはず。私はバスケットボールの試合を観戦する予定でした。新型コロナの感染者数が減らない中、来年開催はどうなるのか今から心配ですね。（小）